

2021年度スポーツ庁委託事業

2021年度 special プロジェクト2020（特別支援学校
を対象とした全国的なスポーツ・文化大会開催事業）委託事業
「第6回全国ボッチャ選抜甲子園」成果報告書

2022年4月
一般社団法人日本ボッチャ協会

本報告書は、スポーツ庁の「specialプロジェクト2020（特別支援学校を対象とした全国的なスポーツ・文化大会開催事業）」委託事業として、一般社団法人日本ボッチャ協会が実施した「第6回全国ボッチャ選抜甲子園」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

1 事業目的

本事業は特別支援学校の生徒対象の、唯一のスポーツの全国大会として開催し、本年で第6回を迎えた。

今年度においても引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を多く受けた生活を送る中、目標を見失いがちな子どもたちにとって、この大会が開催されることにより、日々の生活に目標をもち、生きがいを持って生活すること、生涯にわたってスポーツに親しむきっかけとなること、また今大会への出場が、日本ボッチャ選手権出場や日本代表選手として活躍することを目標として「競技」としてボッチャに取り組むきっかけとなるなど、子どもたちにとって、本大会が開催されることの意義は大きい。

そこで、より多くの子どもたちが安心して参加ができるように、前回大会の経験を生かして、予選会はオンラインで開催し、決勝大会については、港区スポーツセンターにおいて、対面で開催することとした。

2 実施日程および会場

日程：予 選 2021年12月1日(水)～12月10日(金)

決 勝 2022年3月5日(土)

会場：予 選 各学校の体育館等で課題に取り組んだ様子を、動画に納めてクラウドにアップする。

決 勝 シード校2校と予選を勝ち上がった6校により港区スポーツセンターで対面で開催。

3 事業の実施体制

今大会は大会実行委員会を立ち上げ、外部と連携しながら運営した。

- ① 競技に関わる運営：実行委員会（特別支援学校関係者含む）
- ② 大会式典等演出に関わる運営：株式会社ディーエムエス
- ③ 共催団体：公益社団法人日本理学療法士協会
- ④ 協会協定大学：順天堂大学・杏林大学
- ⑤ オンライン配信にかかる運営：株式会社文化工房

4 実施方法

引き続き新型コロナウイルスの影響を多く受けている子どもたちために、去年の経験を生かして、予選会はオンラインでの開催とした。

競技方法は、以下の通りとした。

事前に、エントリーした学校に対し、オンライン説明会を開催した。

- ① エントリーした学校が自分たちの学校で課題に取り組む
- ② 課題に取り組む様子（動画）と結果を事務局へ送る（クラウド上にアップ）
- ③ 予選会の結果については、送られてきた動画と記録用紙を、実行委員会の競技担当が慎重に審査し、決定
- ④ 審査結果に基づいて、結果発表
- ⑤ 3月5日に港区スポーツセンターで決勝大会を開催

5 エントリー校について

第6回全国ボッチャ選抜甲子園
参加申し込み校一覧

No.	地域	都道府県	学校名	チーム名	初出場	今大会シード校
1	北海道	北海道	白糠養護学校	☆北海道白糠養護学校☆		
2	東北	岩手県	盛岡となん支援学校	となんリベンジャーズ		
3		山形県	ゆきわり養護学校	ゆきわりフォース		
4		茨城県	水戸特別支援学校	Suitoku Warriors		
5	関東	茨城県	下妻特別支援学校	茨城県立下妻特別支援学校		
6		茨城県	つくば特別支援学校	One for all, All for one		
7		神奈川県	相模原中央支援学校	BOCCIA KING 21 (ボッチャキング21)		
8		神奈川県	小田原養護学校	ゴールドODAWARA	☆	
9		群馬県	あさひ特別支援学校	Sun Rise		
10		埼玉県	熊谷特別支援学校	熊特ボッチャrevolution		
11		埼玉県	宮代特別支援学校	こげまゆ		
12		埼玉県	日高特別支援学校	かわせみくん	☆	
13		埼玉県	蓮田特別支援学校	Go!Go!Lotus Flower		第4回大会準優勝
14		千葉県	船橋夏見特別支援学校	なっつみーズ		
15		千葉県	桜が丘特別支援学校	King of Cherry Blossoms 2		
16		東京都	花畑学園	HANAGAKU 2nd		
17		東京都	光明学園	光明サンライズ		
18		東京都	鹿本学園	バンビーズ		
19		東京都	小平特別支援学校	小平プレミアムズ		
20		東京都	町田の丘学園	4丘メン (ふぉーおかめん)		
21		東京都	府中けやきの森学園	けやっきーず		
22		東京都	墨東特別支援学校	墨東旋風kids		
23		東京都	永福学園	永福ファイターズ		
24		東京都	筑波大学附属桐が丘特別支援学校	ポローニア		
25	東京都	多摩桜の丘学園	ミラクルチェリーズ	☆		
26	東京都	水元小合学園	M-KOAIANS	☆		
27	東海	愛知県	一宮特別支援学校	サザンクロス		第5回大会優勝
28		愛知県	小牧特別支援学校	小牧特別支援学校 Brex		
29		愛知県	豊橋特別支援学校	とよとくSSB		
30		静岡県	東部特別支援学校	VICTORYS		
31		静岡県	吉田特別支援学校	team うな茶ーず with T,M,S	☆	
32		三重県	度会特別支援学校	チーム・WTR		
33		岐阜県	岐阜希望が丘特別支援学校	team 希望	☆	
34	北陸	石川県	いしかわ特別支援学校	TEAM 夕 (アイ)		
35		富山県	高志支援学校	チームKoshi		
36		富山県	富山総合支援学校	Aster Tomiso		
37		福井県	福井特別支援学校	福井特別支援学校		
38	関西	大阪府	茨木支援学校	茨木支援学校		
39		大阪府	光陽支援学校	TEAM 光陽		
40		大阪府	藤井寺支援学校	FJS		
41		大阪府	西淀川支援学校	西淀	☆	
42	中国・四国	香川県	高松養護学校	うどん4玉		
43		鳥取県	皆生養護学校	PureなWinner♪ (びゅあなういなー)		
44		広島県	広島特別支援学校	チーム広特		
45	九州・沖縄	長崎県	佐世保特別支援学校	SASEBO BARGERS		
46		長崎県	諫早特別支援学校	諫ジュニ・ハイ		
47		宮崎県	延岡しろやま支援学校	Team しろやま		
48		鹿児島県	鹿屋養護学校	Team ふたば	☆	
49		沖縄県	鏡が丘特別支援学校	琉球ミラーイーグルス		
50	沖縄県	泡瀬特別支援学校	AWASEファイヤーボール	☆		

6 事業の成果と課題

昨年に引き続き、予選会は課題に挑戦するという形式で、オンラインで実施した。

予選会は各学校で取り組めるということで、北海道から沖縄まで全国各地から50校のエントリーがあった。初参加の学校は9校あり、全国的な広がりを感じる大会となった。

予選会は、コロナ禍ということもあり、それぞれに学校内で感染防止対策について工夫をし、取り組んでいただいた。校内での実施ということで、参加する生徒たちも安心して取り組むことができたようだが、中には登校を自粛している生徒もいるとのことで、学校側と協議し、当該生徒は実際に投球することは出来ないが、控え選手としてオンラインでの参加を認め、予選会に参加していただいた。こういった参加ができるのも、競技の特性の一つであり、ボッチャ甲子園として開催する意義の一つである。

また、「課題に挑戦する」ということが、「自ら課題をもって練習に取り組む」ということにつながり、練習や学校生活において、子どもたちの自主性が高まっている。

決勝大会については、2年ぶりの対面での開催ということで、勝ち上がった学校はそれぞれに感染防止について対策をして、大会に臨んだ。

開催にあたり工夫した点は、以下通りとなる。

- ① 運営においては、安心安全な大会運営ができるように、専門の業者へ委託・連携により開催した。
- ② 参加者の今後の競技意欲向上に十分繋がる大会となるよう、東京パラで活躍した火ノ玉 JAPAN の選手に、オンラインでゲスト出演してもらい、選手とのやり取りができる時間を設けた。
- ③ 決勝大会開催にあたっては、参加者全員にPCR検査を実施し、選手は大会側で輸送、または自家用車等での来場、スタッフもできるだけ自家用車等で来場する等の対応をし、会場内では検温や健康チェックシートの提出、手指消毒等の徹底等、感染防止対策をして開催をした。
- ④ 全てのエントリー校が、応援視聴参加できるよう、参加にかかるURLを送り、主体的に応援参加できるようにした。
- ⑤ 決勝大会は無観客での開催となったため、通常の大会同様ゲストや司会を招き、実況や解説を入れながら試合の様子を配信した。

【決勝大会会場の様子】



7 参加校数（応募校数）の推移

【第1回】

場 所：東京文化スポーツ会館（Bumbu）（江東区）

参加校：22校（合同チームあり）。チーム数は、18チーム。

【第2回】

場 所：港区スポーツセンター（港区）

参加校：申し込みは前年を大幅に上回る36校。

1回戦からトーナメント戦にすることにより、申し込み全校を受け入れた。

【第3回】

場 所：港区スポーツセンター（港区）

参加校：前回大会同様の36校の応募。

第3回大会より、大会名を「全国選抜ボッチャ甲子園」と変更し、参加校を絞って開催。選考の結果、全24校で開催。

【第4回】

場 所：港区スポーツセンター（港区）

参加校：第3回同様36校の応募。

今大会より今まで参加がなかった地域（学校）から応募があった。

前大会同様、選考の結果、全24校で開催。

【第5回】

場 所：初のオンライン開催。各校の体育館等で実施。

参加校：48校50チームが応募。

エントリーしたすべての学校を受け入れて開催

北海道から沖縄まで全国各地からエントリーがあった。

予選を経て、決勝大会は各学校と港区スポーツセンターをオンラインでつないで開催。

【第6回】

予選会をオンライン、決勝大会を対面で開催。

場 所：予選 各校の体育館等

決勝 港区スポーツセンター（港区）

参加校：50校が応募。

エントリーしたすべての学校を受け入れて開催。

オンライン対戦と対面での対戦を組み合わせ実施。

8 今後の方向性

今大会から新たな試みとして、オンライン対戦と対面对戦を組み合わせ開催をした。未だコロナ禍にある中での開催となったため、開催方法について実行委員会で協議を重ねた結果、オンラインと対面とを組み合わせ、予選会はエントリーした学校をすべて受け入れて開催し、決勝大会は校数を絞り感染対策を徹底して開催することとした。

予選会は、エントリーのしやすさから、昨年同様の50校からの申し込みがあり、各学校で「課題に挑戦する」ということが教育的意義も大きく、参加した子どもたちにとっては、自主性が育まれ、競技力向上につながる大会となった。

また、決勝大会では生徒たちや学校関係者は、2年ぶりに全国の仲間と会って対戦することができ、その喜びに溢れていた。

以上のような今回の大会運営を大いに生かし、今後もオンラインと対面を組み合わせた大会運営を検討していく。

また、引き続き、スポーツ庁、東京都、学校や地域社会、各県の教育委員会との連携で、より社会的意義のある大会にしていきたい。